

日本観光研究学会機関誌「観光研究」論文等定型フォーマット 14pt.
—副題 12pt. 明朝太字—

—Title(英文表題) Times New Roman 11point
—Subtitle (英文副題) Times New Roman 11point—

日本 太郎*、観光 花子**、研究 二郎***
NIHON Taro*, KANKO Hanako**, KENKYU Jiro***

キーワード：観光（tourism）、観光対象（tourist object）、討議、書評等の場合は不要、10 ポイント

行 数 確 認 の た め 審 査 用 原 稿 に は 削 除 せ ず 掲 載 の こ と	1. はじめに 本書式フォーマット見本は、「観光研究」に投稿する論文、研究ノート、資料、調査報告、討議、書評・文献紹介、論説の作成にあたって留意すべき点をまとめたものである。	2. 原稿書式 (1) 原稿の書式 原稿は下記の規定にしたがい学会ホームページ上のフォーマットを利用して作成する。 (2) 行数・字数・余白・字体など 用紙は、A4判とする。1ページは、ヨコ23文字、タテ43行、2段とする。余白は上30ミリ、下23ミリ、左右は23ミリ、段の間隔は6ミリとする。字体は原則として日本語の場合は明朝体、英語・数字の場合はTimes New Romanを使用する。	3. 表題など (1) 表題・副題・英文表題 表題は14ポイントで大字にする。副題がある場合は12ポイントとし、英文表題は11ポイントとして、全て左寄せにする。 なお、論文は、独立性を有し、完結性の高いもの	とするため、題目（副題を含む）に「その1」、「その2」などと付けることは認められない。 (2) 著者名・ローマ字氏名 著者名・ローマ字氏名は10ポイントとする。著者名末尾には「*」を付ける。連名の場合も同様であるが、所属が異なる場合は「**」、「***」などとする。 (3) 要約 1) 論文の場合 6行以上8行以内の英語要約を冒頭に、ならびに4行以上6行以内の日本語要約を文末に付ける。なお、掲載場所は本フォーマットを参照のこと。要約は9ポイントで、左右の行端は、本文の左右行端からそれぞれ2字分さげること。要約文の頭に、「要約」「summary」の表記は必要ない。 2) 研究ノート・資料・調査報告、論説の場合 6行以上8行以内の日本語要約を冒頭に付ける。なお、掲載場所は本フォーマットを参照のこと。要約は9ポイントで、左右の行端は、本文の左右行端からそれぞれ2字分さげること。要約文の頭に、「要約」「summary」の表記は必要ない。 (4) キーワード 論文、研究ノート・資料・調査報告、論説の場合、3~4語のキーワードを下記の要領に従い10ポイント	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3
---	--	--	--	--	---

*○○大学△△学部□□学科、**○○株式会社、***○○大学大学院△△研究科博士前期課程

トで記すこと。日本語キーワードには英訳をつけること。なお、行端は要約とそろえ、本文から左右2字分さげる。また、英語キーワードは固有名詞以外の語頭は小文字にすること。

キーワード: 観光 (tourism)、観光対象 (tourist object)

(5) 各表記の行間

表題と英文表題の間はあけない。英文表題と著者名の間は1行あけ、著者名とローマ字氏名の間はあけない。

論文、研究ノート・資料・調査報告、論説の場合、ローマ字氏名と要約、要約とキーワード、キーワードと本文の間はそれぞれ1行あける。それ以外の原稿は、ローマ字氏名と本文の間は1行開ける。

(6) 所属の表記

所属は1ページ目下端部の2行分を用いて表記する。1行は本文との境界線に使い、境界線下1行に10ポイントを用い、「*所属」の形で記すこと。連名で所属が異なる場合は、「**」、「***」とし、著者名の表記部分に付した*印と対応させる。所属は簡潔に記すこと。

4. 本文

(1) 本文の文字サイズ

本文には 10 ポイントを用いる。

(2) 本文の章題等

本文の章題等は以下のように統一する。これ以外の小項目はなるべく避ける。

章 1. 2. 3. (数字は、全角・ゴシック体。)

章題の上に空白行 1 行をいれる)

節 (1) (2) (3) (同、半角・ゴシック体、

節題の上には空白行を入れないこと)

項 1) 2) 3)

(同、半角・ゴシック体、項題の上には空白行を入れないこと)

数字の後に半角スペースを入れる。章題等の文字

表-2 センタリングして配置

部分は全てゴシック体（太字にはしない）とする。
章と章の間は一行あけること。

(3) 図・表・写真

それぞれのサイズが1ページを超えないものとする。また、図表中の文字等が十分視認できるように留意しなければならない。

図・表・写真のレイアウトは、縦方向については、誌面の天地に割り付けること。横方向については、図の横幅を本文の段組の1段分または2段分にあわせ、図・表・写真を段の中途で切りその左または右側の余白に文章を回り込ませて配置することは避けること。

記載の各順に図-1、表-1、写真-1のように通し番号をつける。図および写真の場合は下に、表の場合には上に通し番号とタイトルをいれる。通し番号とタイトル文字はともに、原則としてゴシック体（太字にはしない）、10 ポイント、センタリング

表-1 センタリングして配置



図-1 センタリングして配置

「、・ヲイウェオヤユヨツ・アイウエオカキクコサシスゼン
タツツテナニスネノハヒホマミムメモヤヨラリルレロワ」。

【補注】

【引用·参考文献】

- 1) 前田勇 (1995) : 観光とサービスの心理学, 学文社, p.215
 - 2) 小谷達男 (1974) : 観光と地域開発 (鈴木忠義編『現代
↑
の「地域」』)

タイトル(12pt・太字) 一副題 10 ポイント・太字

觀光論』, 有斐閣), pp.209-212

- 3) Urry, John(1990): *The Tourist Gaze: Leisure and Travel in Contemporary Societies*, London, Sage Publications, pp. 105-112
 - 4) 鈴木忠義 (1987) :「観光学」を求めて, *観光研究*, 1(1), pp.2-5
 - 5) Uzzell, David(1984): An Alternative Structuralist Approach to the Psychology of Tourism Marketing, *Annals of Tourism Research*, 11(1), pp.79-99
 - 6) 観光庁 : 旅行業の状況, 日本語,
<http://www.mlit.go.jp/kankochō/shisaku/jyoukyou.html>,
2012.3.5
 - 7) 日本経済新聞 : 図書館の本コンビニで貸出, *日本経済新聞*, 2003年2月20日朝刊, p.21

日本 太郎*、觀光 花子**、研究 二郎***